

『就実論叢』第45号 抜刷

就実大学・就実短期大学 2016年2月29日 発行

保育学生による地域子育て支援の取り組み —2015年度活動報告—

**A Community Parenting Support Program by Students in Early Childcare
Practical Training School: A Report of the Activity 2015**

秋 山 真理子 ・ 鎌 田 雅 史
柴 川 敏 之 ・ 蔵 永 瞳
笹 倉 千佳弘 ・ 澤 津 まり子
Z. 山田章子 ・ 田 中 誠
山 根 薫 子

保育学生による地域子育て支援の取り組み —2015年度活動報告—

A Community Parenting Support Program by Students in Early Childcare
Practical Training School: A Report of the Activity 2015

幼児教育学科

秋 山 真理子
鎌 田 雅 史
柴 川 敏 之
蔵 永 瞳
笹 倉 千佳弘
澤 津 まり子
Z. 山田 章子
田 中 誠
山 根 薫 子

はじめに

本学幼児教育学科では、子育て支援を目的とした学生ボランティアグループG B A (Girls and Boys Be Ambitious の略、以降G B Aと記す。)を結成し、2015年度で10年目を迎えた。G B Aの主な活動は、「就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」の開催であり、過去9年間の取り組みについては既に報告済みである^{1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9)}。

昨年度の報告では、今後の課題として、「公演における音響について」と「駐車場改善について」の2点を挙げた。それぞれの課題について、もう少し詳しい説明を加えておく。

「公演における音響について」という課題は、次のようなことであった。音響については、毎回、保護者から、声が聞こえない、雑音、ハウリング等の不満の声が聞かれた。そこで、昨年度、音響機器の機材を新たに購入し設備改善を図った。本年度は、さらなる設備投資が必要か否かを検討する必要があると思われる。

「駐車場改善について」という課題は、次のようなことであった。昨年度後半からの大きな問題は、駐車場の問題であった。これまでは学生と教員で手分けして、駐車場整理をおこなってきたが、学内の新たな施設建設等に伴い駐車場不足が生じた。改善・対応策として新たに南駐車場及び浜駐車場の使用を可能とし、事故防止並びに駐車整理に案内係を配置した。しかし、この2ヶ所は会場から離れているため、幼児を伴う参加者にとっては不便であった。

本報告は、上記のような課題解決を念頭においてすすめた、2015年度の地域子育て支援の取り組みについて、経過及び結果をまとめたものである。

1 活動内容

1) 「就実やんちゃキッズ ～きてみてあそぼうでえ～」

「就実やんちゃキッズ ～きてみてあそぼうでえ～」の実施は今年で8年目を迎えた。

年間の活動回数は昨年度同様8回である。尚、「学外就実やんちゃキッズ」は昨年度をもって終了し、今年度からは学内の「就実やんちゃキッズ」に絞って行った。例年通り、前半はパネルシアター・リズム体操・オペレッタ・手遊び、後半は様々な遊びを行うことのできる「交流広場」で構成している。公演内容及び参加人数を表1に示す。

表1 就実やんちゃキッズ活動内容

日 時	公 演 演 目	参加人数	学生数
第1回 4月25日	パネルシアター 「はるがやってきた」 リズム体操 「昆虫太極拳」 オペレッタ 「じしんがきたらどうする？」 * 幕間に手遊び、公演後交流広場	大人 124人 子ども 158人	51人
第2回 5月23日	パネルシアター 「とりかえっこ」 リズム体操 「ぼよん行進曲」 オペレッタ 「歯みがき上手にできるかな？」 * 幕間に手遊び、公演後交流広場	大人 138人 子ども 175人	69人
第3回 6月27日	パネルシアター 「ねがいごとかなうかな??」 リズム体操 「エビカニクス」 オペレッタ 「おおきなかぶ」 * 幕間に手遊び、公演後交流広場	大人 208人 子ども 253人	89人
第4回 9月12日	パネルシアター 「もりのくまさん」 リズム体操 「昆虫太極拳」 オペレッタ 「おおきなかぶ」 * 幕間に手遊び、公演後交流広場	大人 148人 子ども 160人	33人
第5回 10月17日	パネルシアター 「秋を見つけに行こう！」 リズム体操 「サンサンたいそう」 オペレッタ 「おいもをどうぞ」 * 幕間に手遊び、公演後交流広場	大人 116人 子ども 134人	40人
第6回 11月28日	パネルシアター 「はたらくくるま」 リズム体操 「どうぶつたいそう1・2・3」 オペレッタ 「キツネくん、友達できるかな？」 ～「こんにちは」でみんな仲良し～ * 幕間に手遊び、公演後交流広場	大人 84人 子ども 111人	42人
第7回 12月19日	パネルシアター 「サンタがやってくる」 リズム体操 「ドンスカバンバンおうえんだん」 オペレッタ 「クリスマスおめでとう」 * 幕間に手遊び、公演後交流広場	大人 78人 子ども 115人	25人
第8回 1月23日	パネルシアター 「とりかえっこ」 リズム体操 「おすしのピクニック」 オペレッタ 「干支のはじまり」 * 幕間に手遊び、公演後交流広場	大人 98人 子ども 130人	95人

* 第4回やんちゃキッズ以降は、2年生は実習・就職活動等があるため、1年生が中心となって開催する。



図1 手遊び



図2 パネルシアター



図3 リズム体操



図4 オペレッタ



図5 交流広場 ダンボールハウス



図6 交流広場 新聞シャワー

今年度のテーマは、昨年度に引き続き「みんなで楽しく♪ド・レ・ミ・ファ・ソ」として、「歌う」「演奏する」「音楽に合わせて体を動かす」等の要素を、パネルシアター、リズム体操およびオペレッタの中に多く盛り込み、「音楽表現」の一つ一つを大切にしていこう心がけた。また、今年度も、「パネルシアター」では歌に合わせて一緒に体を動かし、「リズム体操」では、子どもたちに前に出てきてもらうよう声掛けをして学生と一緒に体操をし、「オペレッタ」では、舞台から子どもに呼びかけて、子どもたちもお話に参加するなど、できる限り「参加型」にすることによって、参加者に音楽の楽しさに触れてほしいというねらいも込めた。また、多くの童謡を取り上げ、ピアノや小物楽器・手作りの楽器なども効果的に用いることにより、子どもが音楽への興味・関心を持って楽しむことのできる舞台作りを工夫

した。

パネルシアターは、毎回パネルの中に色々な工夫を凝らしていたが、第1回のパネルシアター「はるがやってきた」や第5回のパネルシアター「秋を見つけに行こう」では、季節の童謡のなかに楽器演奏やペープサートや身体表現などの工夫をちりばめて子どもたちに楽しんでもらえた。第3回のパネルシアターでは、ピアノの代わりに舞台の中央で星の役の学生がピアノを吹き、まわりのみんなが歌い合奏するという新たな試みを行った。パネルシアターの絵や仕掛けも回を追うごとにレベルの高いものになっていったが、今後もパネルの中にとどまらずに、よりダイナミックに表現の幅を広げることを目指したいと思う。リズム体操は、「エビカニクス」では、学生がそれぞれエビとカニの帽子をかぶり、「昆虫太極拳」では、カラービニールで作ったカマキリ、ダンゴムシ、バッタ、カメムシの衣装を着て、「サンサン体操」では、マントを羽織るなど、視覚的にも子どもたちの注意をひき一緒に元気よく体操をしてもらうのに効果的であった。オペレッタは、4、5、6月の3公演は2年生中心の公演だが、1年間の積み重ねが花開いたように、一年次と比べて質が高いものになった。4月の地震をテーマにしたオペレッタでは、避難に際して気を付けることを歌とパネルにして子どもにわかりやすく伝わる工夫をし、5月の歯磨きの大切さをテーマにしたオペレッタでは、「オペレッタ」にふさわしく、いたるところに歌と音楽があふれた舞台となった。秋からの1年生の公演も、練習を積んだ後が見られ、慣れないながらも小物楽器を使った音楽表現を試みたり、童謡の歌詞を替え歌にしたり、オノマトペ（擬音語・擬声語・擬態語）を効果的に用いるなど、さまざまな形で童謡をとり入れる工夫を行った。童謡が子どもたちに歌い継がれていくために、「やんちゃキッズ」もひとつの役割を果たしていけたらと思う。

6月には、2年生が実習前の最後のオペレッタとして「大きなかぶ」を取り上げ、9月には、1年生が初めての公演として同じく「大きなかぶ」を取り上げた。同じ題材が続いたが、挿入歌を新たに作ったり、構成を変えるなどの工夫がされて、それぞれに特色を持った楽しめる上演となった。同じ演目を上演することの意味も考える良い機会となった。また、新1年生の公演後の反省会では、舞台のこと以上に交流広場についての反省や意見が多く聞かれ、子どもや保護者の方とのかかわりや多くの人を迎えるにあたっての配慮の大切さに気付いている様子がみられ大きな収穫だった。

2 アンケートの方法及び結果

「やんちゃキッズ」では、保護者と学生に対しアンケート調査を行っている。

1) 参加者保護者へのアンケートの方法

受付でアンケート用紙を配布し、「やんちゃキッズ」終了時に回収した。アンケートでは、保護者に対し、①やんちゃキッズの参加回数、②子どもの年齢、③子どもとの続柄、④やんちゃキッズのプログラムの内容に関する意見、⑤今後の参加意思、⑥やんちゃキッズをどのように知ったかについて尋ねた。

2) 保護者へのアンケート結果

以下の結果は、「やんちゃキッズ（4／25、5／23、6／27、9／12）」で得られたデータに基づくものである。協力してくださった保護者の数は、505名であり、例えば夫婦で回答している場合など、複数の回答者によって答えられたアンケートも含まれ、回収されたアンケートの総数は457件であった。

i. やんちゃキッズの参加回数

やんちゃキッズに参加した世帯ごとに、今回の参加が何回目か尋ねた結果を図7に示す。 χ^2 検定の結果、参加回数に偏りはなかった（ $\chi^2(6)=5.07, p=.53$ ）。やんちゃキッズには、初めて参加する世帯だけでなく、リピーターとなっている世帯も毎回一定数いるようである。

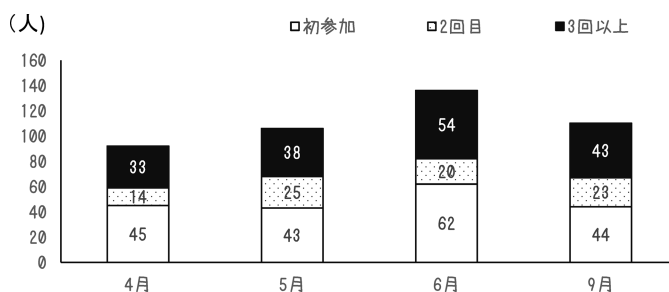


図7 やんちゃキッズ参加世帯の参加回数

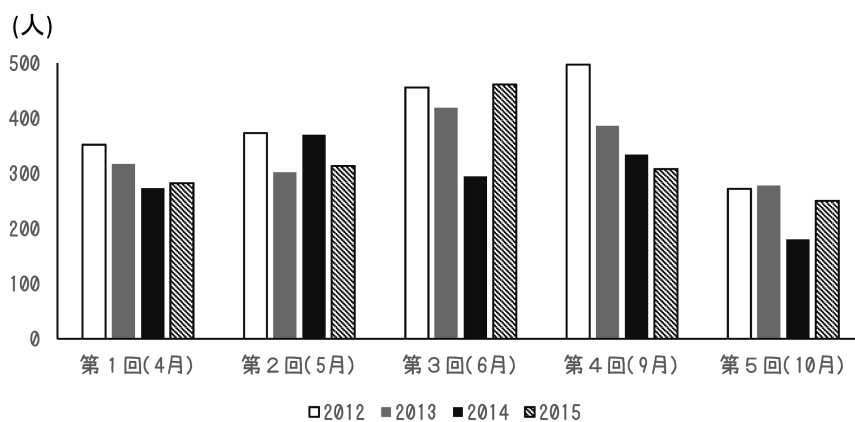


図8 やんちゃキッズの参加世帯の年次推移

表2 やんちゃキッズをどのように知ったかについて

	ホームページ	ポスター	チラシ	新聞	知人	就実の関係者	その他
人数(人)	89	111	57	21	116	20	14
割合(%)	19.47	24.29	12.47	4.60	25.38	4.38	3.06

ii. 参加人数の推移

過去4年における月ごとの参加者の推移を図8に示す。2012年度は、参加者が最高497人を記録し（第4回）、学生スタッフの不足及び子ども一人あたりの遊ぶスペースの減少等による子どもの怪我や事故が懸念されていた。

今年度はそれほどの人数には達しなかったものの、461人（第3回）と参加者が非常に多い回があった。この回の広報は他の回と特に変えていなかったが、参加者の口コミやSNS等で日程等の情報が広がったと考えられる。実際、やんちゃキッズをどのように知ったか尋ねた結果を集計したところ、情報源として最も多かったのは知人（25.38%）であった（表2）。本年度において参加人数の多かった6月は、2年生が実習に出て不在となる直前の月であり学生スタッフの人数が多かったため、参加者の安全に配慮しながら活動を行うことができた。しかし、今後は参加人数が非常に多い場合に備えて、交流広場での遊具の数を減らし、一人あたりの遊びのスペースを十分に確保する等、臨機応変な対応ができるようスタッフ間で打合せをしておく必要があると考えられる。

iii. アンケートの記入者と子どもの関係

アンケート記入者と子どもの関係について、表3に示す。引率者の多くは母親であり（76.83%）、次いで父親（18.22%）、祖母（3.17%）の参加が多かった。アンケート記入者のうち、夫婦で一緒に回答しているケースが50件（アンケート457件のうち10.94%）あり、父もしくは母と一緒に祖父母が回答しているケースは、8件（アンケート457件のうち1.75%）であった。

表3 引率者の割合

	人数(人)	割合(%)
母	388	76.83
父	92	18.22
祖母	16	3.17
祖父	2	0.40
その他	7	1.39
保護者合計	505	100.00

iv. 子どもの年齢について

1世帯辺りの子どもの参加人数は、全世帯457件のうち、52.73%（241件）が1人、40.91%（187件）が2人、3.50%（16件）が3人以上であった。子どもの総数は663人となっており、年齢の分布は表4の通りである。全体的に、3歳未満の子どもが62.29%と半数を超えており、多い傾向がみられた。

表4 参加した子どもの年齢

	人数(人)	割合(%)
1歳未満	97	14.63
1歳以上2歳未満	150	22.62
2歳以上3歳未満	166	25.04
3歳以上4歳未満	108	16.29
4歳以上5歳未満	83	12.52
5歳以上6歳未満	41	6.18
6歳以上	18	2.71
合計	663	100.00

v. プログラムについて

①全体の時間

やんちゃキッズは、90分間のプログラムで開催している。プログラムの長さについて、参加者の印象を図9に示す。参加者の81.18%がちょうど良いと答えており、プログラムの長さは適切であることが示された。

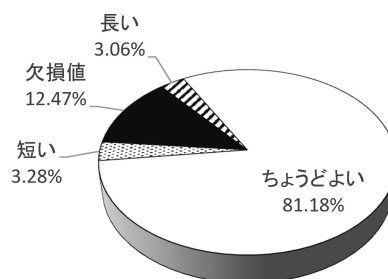


図9 プログラムの長さ

②特に良かったと思うプログラム

アンケートでは、良かったと思うプログラムについて、保護者と子どもに回答を求めた（複数回答可）。保護者と子どもが選んだプログラムを表5に示す。

昨年に引き続き、保護者も子どもも、交流広場を良かったとする割合が最も多かった。また、二番目に多かったのがリズム体操という点に関しても、昨年度と同様の結果が得られた。今年度のテーマは昨年度に引き続き『音楽』であったが、今年度は、演目中に音楽をふんだんに取り入れただけでなく、子どもたちに直接問いかけたり、参加を呼びかけたりと、参加型の演目になるよう工夫を凝らした。たくさんの演目の中でもリズム体操が人気であったのは、体操をする際に子どもたちを舞台の前に呼び、学生スタッフと一緒に音楽を身体で感じる体験の時間を設けていたためと考えられる。

表5 特によかったと思うプログラム

	手遊び	パネルシアター	リズム	オペレッタ	身体測定	交流広場	その他
保護者による選択数	129	75	227	138	77	264	8
(%)	28.23	16.41	49.67	30.20	16.85	57.77	1.75
子どもによる選択数	60	21	117	60	13	250	12
(%)	13.13	4.60	25.60	13.13	2.84	54.70	2.63

vi. 今後の「やんちゃキッズ」への参加意思

図10に示す通り、保護者に対して「次回も参加したいと思いますか？」と尋ねた結果、「思う」と答えた参加者が79.87%であり、「思わない」と回答した参加者はいなかった。地域の子育て支援の取り組みとして、本活動は期待されていると言えよう。

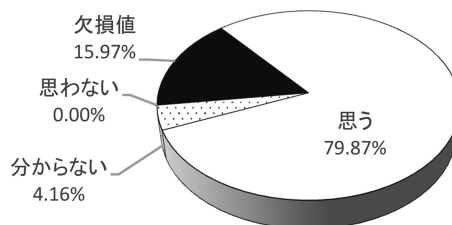


図10 今後の参加意思

3) 学生の振り返りのためのアンケートの方法

本アンケート調査は、学生自身が活動を振り返り、さらに問題点を抽出し、次回以降の「やんちゃキッズ」に活かすきっかけとすることを目的にしている。「やんちゃキッズ」終了後の反省会の時間に、学生にアンケート用紙を配布し回収した。質問紙は、①公演について振り返り（11項目）、②交流広場（子どもとのふれあい）に関する振り返り（10項目）、③全体

に関する満足度の振り返り（2項目）の23の振り返り項目から構成されている。各項目について「あてはまる（5点）」「少しあてはまる（4点）」「どちらでもない（3点）」「ややあてはまらない（2点）」「あてはまらない（1点）」の5件法にて回答を求めている。加えて、公演と交流広場での活動それぞれに関し、学生がどのような課題を意識するようになったかについて自由記述による回答を求めた。7月の「やんちゃキッズ」までは、1年生と2年生の混合で実施し、9月からの「やんちゃキッズ」は2年生の長期学外実習のため、1年生のみで実施した。各回でアンケートに回答した学生数は、4月（51名）、5月（69名）、6月（89名）、9月（33名）であった。

4) 学生へのアンケートの結果について

i. 調査項目の記述統計量

質問項目の集約と今後の改善を目的に、アンケートの各項目に関する、平均値、標準偏差、1変量の t 検定における95%信頼区間について表6に示す。学生が楽しみながら、積極的に子育て支援ボランティアの活動を行っていることが伺えた。

表6 調査項目の記述統計および一変量の t 検定における95%信頼区間の推定

	有効 N	平均値	中央値	標準偏差	標準誤差	サンプルサイズ	N=242
						信頼区間	
						95%下限	95%上限
公演について							
事前準備・練習がよくできた。	236	3.64	4.00	(1.11)	0.07	3.50	3.78
保育に関する技術が身についた。	236	3.93	4.00	(0.85)	0.06	3.82	4.04
人前で演技することが上手になった。	231	3.57	4.00	(1.04)	0.07	3.44	3.71
意識して笑顔ができた。	236	4.34	5.00	(0.92)	0.06	4.22	4.46
積極的に活動できた。	235	4.13	4.00	(0.87)	0.06	4.02	4.24
みんなと協力することができた。	235	4.30	5.00	(0.89)	0.06	4.18	4.41
臨機応変に行動することができた。	236	3.86	4.00	(0.90)	0.06	3.75	3.97
自分自身で創意工夫した。	236	3.52	4.00	(0.87)	0.06	3.41	3.63
自分の役割がちゃんと果たせた。	235	4.16	4.00	(0.93)	0.06	4.04	4.28
新たな課題が見つかった。	225	3.75	4.00	(1.16)	0.08	3.60	3.90
交流広場について							
子どもと積極的に交流できた。	238	4.32	5.00	(0.89)	0.06	4.21	4.44
保護者・高齢者と積極的に交流できた。	238	3.61	4.00	(1.13)	0.07	3.46	3.75
遊びのレパートリーが増えた。	237	3.38	3.00	(1.02)	0.07	3.25	3.51
自分も楽しく参加できた。	238	4.54	5.00	(0.84)	0.05	4.43	4.65
自分に自信がもてるようになった。	238	3.65	4.00	(0.89)	0.06	3.53	3.76
他人の立場や気持を読み取れるようになった。	236	3.69	4.00	(0.81)	0.05	3.59	3.80
子どもについての理解が深まった。	237	3.95	4.00	(0.82)	0.05	3.84	4.05
子育て支援への理解が深まった。	237	3.99	4.00	(0.95)	0.06	3.87	4.11
新たな課題が見つかった。	224	3.77	4.00	(1.12)	0.08	3.62	3.92
全体的な満足度							
全体的に今日の活動に満足できた。	238	4.22	4.00	(0.94)	0.06	4.10	4.34
あてはまる(5)、少しあてはまる(4)、どちらでもない(3)、ややあてはまらない(2)、あてはまらない(1)							

あてはまる(5), 少しあてはまる(4), どちらでもない(3), ややあてはまらない(2), あてはまらない(1)

また、全体平均の95%信頼区間の推定値が「4：少し当てはまる」に満たない項目については、今年度の学生の課題として捉えることができる。今年度の学生スタッフは、子ども理

解や保育の技術、保護者・高齢者との関わり等、様々な課題が自身にあると感じていた。これらの課題はただ活動に取り組めば向上するものではないため、今後は、これらの課題についてリハーサルや活動後の振り返りの時間に触れる等、課題達成のための取り組みが必要であると考えられる。

ii. 1年生の取り組みの経時的分析

2年生の長期学外実習のため、「やんちゃキッズ」は、9月からは1年生が主となって活動する。1年生は9月から、試行錯誤しながら急激な変化に適應していかなければならない。振り返りアンケートにおける、1年生の公演および交流広場に関する得点を合算した、月ごとの変化について、図11に示す。公演については、合算した時の信頼係数（クロンバックの $\alpha = .84$ 、交流広場については、 $\alpha = .87$ と一定の信頼性を示した。

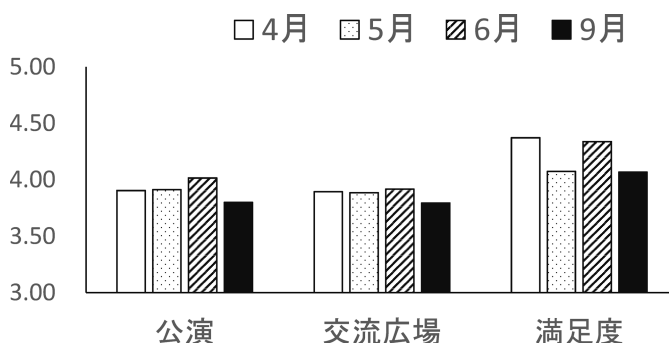


図11 公演・交流広場・満足度の月ごとの変化

満足度と交流広場における振り返り ($r=.59$)、講演に関する振り返り ($r=.39$) との間には、1%水準で有意な正の相関関係が認められた。

学生の交流、公演、課題得点および、活動全体に対する満足度の尺度得点を従属変数とし、測定時期を独立変数とした分散分析を行った。その結果、測定時期の主効果は認められなかった。また、本アンケートの範囲においては、月ごとの違いはほぼ認められなかった。学生は、毎回やんちゃキッズの活動を実施する度に、慢心することなく、そこから自身の課題を見出していたと推察される。

表7 交流広場、講演の振り返り得点および満足度の記述統計量と相関値

	交流広場	講演	満足度	有効 N	平均値	標準偏差
交流広場	1.00			74.00	3.72	(0.73)
講演	0.77**	1.00		63.00	3.80	(0.63)
満足度	0.59**	0.39**	1.00	78.00	3.94	(1.09)

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

おわりに

2015年度の活動を今年度の課題にしたがって、次のように考察及び統括をし、今後の課題を提示する。

1 今年度の課題の達成状況

1) 駐車場について

今年度も、学内の建物の解体や建設工事が行われている中での開催であり、駐車場の減少に加え、他の学部・こども園・小学校の催し物と重なることが多かったため、駐車場確保や会場への誘導に困難が困難であった。特に9月のやんちゃキッズではフェイスブックなどで「やんちゃキッズ」の日時の情報のみが流れたことなどから、参加者は461名に達し、就実やんちゃキッズのために確保していた南駐車場、浜駐車場は満車となり、2つの駐車場とは離れた位置にあるゴルフ場駐車場を臨時駐車場として使用せざるを得なかった。しかも初めての参加者の車が多かったため駐車場は混乱し、また、駐車場位置が会場から離れているためにわかりにくいと参加者から不満の声があがった。同様の事態を未然に防ぐ目的で6月以降の就実やんちゃキッズでは、駐車場の案内係を増員し、毎回7～8名の学生と複数の教員が案内、誘導を行う体制に変更したが（図12）、それによって開場時のスタッフの人数が不足する事態が起こっている。また、「やんちゃキッズ」開始時間以降は、公演等の役割で学生は会場に移動するために、開演以降の案内、誘導が手薄になってしまうという問題も起こった。

このような問題に対し、10月のやんちゃキッズでは、混乱やトラブルの回避と責任の所在を明確するために、開始前に、教員から駐車場について改めて説明とお願いをした。また、駐車場案内・開場案内に関する掲示を増やすことによって対応した。また、ホームページやポスター、広報用のチラシにおいても、可能な限り公共交通機関をご利用いただくように周知するよう努めている（図13）。

結果として10月の就実やんちゃキッズでは、大きな混乱はなく無事に行うことができた。しかし、今後とも、駐車場の確保、案内、学内の誘導は大きな課題である。また、駐車場から会場までの通路が複雑になったため、学内を通して会場に行く道順をわかりやすく示す立て看板や幟、掲示についてより工夫していく必要が今後もあると思われる。

2) 音響について

保護者アンケートにおいて、公演について「せっかく工夫をしているのに、声が聞き取りづらく残念であった」といった趣旨の意見をいただくことも多かったことから、昨年度の予算においてスピーカーを増設した（図14）。また、これまでスピーカーのボリューム調節を機器ごとに行う必要があったため、マイクのハウリングが起こった場合に制御することが困難であったうえ、比較的音響に詳しい学生に依存してしまう傾向があり音響トラブルに対する臨機応変な対応が難しい状況であったため、すべての音響を一括管理するためのミキサー



図12 駐車場案内の充実



図13 ホームページでの案内



図14 スピーカーの増設



図15 音響ミキサーの導入



図16 受付の改善



図17 靴置き場の工夫

を導入した（図15）。3歳未満の子どもたちが過半数を占めるやんちゃキッズにおいて、ハウリングの状態が頻発した時、子どもたちを怖がらせてしまう事態も生じていたため対応が必要であった。これらの設備は、2014年の9月に増設され、今年度は昨年の機器増設の効果性の検討が必要であった。

本年度において、これまでの講演を見る限り、上述の問題について、一定の解決を得たように思われる。講演の折、学生の声が通りにくい状況は依然として見られるが、音響機器の出力不足というよりはマイクの使い方や、事前の機器調整における準備の問題であり、事前にしかりとした準備を行えば人数が300名を超える場合であっても問題なく声は通るように改善された。また、マイクに頼らずに、しっかりと声を張り表現することが肝要であるという意識が根付きつつあり、あくまでも補助的な位置づけとしてマイクを捉えた場合、現状のもので十分な機能を備えていると思われる。また、ミキサーの導入によって音響機器の調整が容易になったことから、音響が小さい時や、ハウリングが起こった場合の対応も迅速になった。この音響調整は、主音量のつまみの位置さえ共有理解していれば、どの学生にも可能である。また、スピーカーの前でマイクを使用するとハウリングが起こりやすいなど、機器使用時の注意事項についても、学生間で周知している。さらにリハーサル時には本番と同じようにマイクを使用し、立ち位置を確認してマイクテストをすることでハウリング抑止に勤めている。来場者にとって快適な空間となるように、音響機器の利用や事前の準備の在り方について引き続き改善していきたい。

3) 全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくり

全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくりについて、経年的に課題として掲げ改善にあたっている。2015年度においては、以下の点について改善を試みた。



図18 スリッパの配置



図19 赤ちゃんコーナー



図20 雨のカーテン

①おむつコーナー・授乳室の改善

おむつコーナー・授乳室は、体育館アリーナ前のホールに設置しているため、これまで来場者は一度靴を履き替えるために、受付前の靴置き場を経由しておむつコーナー・授乳コーナーを使用する必要があった。しかし、乳児を抱いたまま靴置き場で靴を探し、履き替えることは大変であるため、体育館アリーナから授乳室へ行くための直通の出入口を設け、利用者用のスリッパを配備することにより改善を図った（図18）。これにより、円滑なおむつコーナー・授乳室が使用可能となった。

②交流広場の改善

本年度は、プログラム後半の交流広場において、乳児コーナーの改善を行った。これまで乳児コーナーは、フロアにピンク色の絨毯を敷くことによって簡易的に設置していたが、薄い絨毯であるため快適とは言い難い状態であった。また、乳児コーナーで、乳児以外の子どもたちが走り抜ける場面や、大人が絨毯の上を行き来することもあったため、場合によっては不注意による接触事故が懸念された。そのため、今年度は、絨毯の上に乳児専用のカラフルな抗菌プレイマットを配置し（図19）、乳児たちにとってより快適な空間を作り出すとともに、空間を視覚的に区切り乳児専有スペースと分かりやすくすることで、より安全な空間を作り出すことができたと思われる。乳児コーナーについては、事故抑止のため、今後もやんちゃキッズのメンバー同気を配っていきたい。

③体育館内の掲示の充実

昨年度において、男性トイレと女性トイレの場所をわかりやすく表示するために、掲示物を作成し、受付でも案内するように試みたが、本年度は掲示箇所を増やし、体育館アリーナの2階ホールからも、1階のトイレの位置がわかるように改善した。さらに、A型の立て看板を2か所に設置することによって、来場者にとってより分かりやすい案内となるように改善を行った。

また、トイレ案内のみならず、授乳室や忘れ物コーナーの掲示についても行うように変更した。また、靴置き場については、ビニールテープによる目印を設け、利用者にとって分かりやすくまた整頓しやすい環境となるように工夫を行った。さらに、会場への入り口には来場者にワクワクしてもらえるように、雨のカーテンを設置した（図20）。

4) その他

G B Aの活動は、今年で10年目を迎え、活動当初から使用していたビデオカメラが古く、バッテリーがあまり持たない、ズーム倍率が低く近い位置から撮影しないといけない、記録可能な時間が短いなどの理由から買い換えを希望していたが、本年度の学内奨励金予算を利用して実現することができた。購入したビデオカメラ（JVC 制 GZ-F100）は最大40倍までの光学ズーム機能を搭載しているため、体育館二階ギャラリー席からの撮影が可能となった。昨年まで、体育館フロア後方から三脚を設置し、活動を記録していたが、子どもたちが三脚で遊ぶとする事態も見られ、事故防止のために常に気を配る必要があった。不慮の事故を防ぐ目的で、三脚周りにフェンスを配置する対応をとっていたが、開場が混雑した時には、撮影機器が体育館フロアのスペースをとってしまい、来場者にとっては邪魔になってしまう場面や、撮影機器が気になって講演に注意が向かない子どもたちも散見していた。今回の機器整備によってこれらの問題を解消することができた。

また、旧機器はビデオ本体に記録できる時間数は短く、毎回のやんちゃキッズごとに動画を記録する際 CD-R に焼き付ける必要があったが、新機器は .wmv などの圧縮フォーマットで動画を簡便に保存する機能があり、やんちゃキッズの動画を共有することがより容易となった。今後、動画を有効活用して、振り返りを行い、よりよい会となるようにしていきたい。

2 今後の課題

1) 10周年における就実やんちゃキッズの見直し

次年度は、幼児教育学科の子育て支援ボランティアグループである G B Aが発足して10周年の節目にあたる年である。現在では、学科の 1 / 3 以上の学生が自主的に参加し、平成26年度実績では、述べ1872名（保護者881名、子ども991名）の来場者を迎えるまでに発展してきた。G B Aの活動が学科の特色として地域に認知され、入学以前から G B Aの活動に関心を抱いていた学生も多い。また、就実やんちゃキッズは、幼児教育学科の初年次教育や、授業とも密接に関係し、学生の主体的な学びの場として、幼児教育学科になくてはならない活動の一つとなっている。

しかしながら、G B Aの活動が活発になり規模が拡大し、地域における認知度が高まり多くの来場者を迎えるにあたって、運営上の課題も析出してきている。例えば、駐車場の確保や施設利用に関する調整・折衝の難しさ、教員が分掌として担当する際の負担の大きさ、人員不足への対処、学科の教育課程の中での位置づけの確認など、G B Aの活動の在り方そのものに関する課題である。この点については、よりよい活動を継続していくためにも、学科のFDでも審議事項として取り上げ真摯に議論する必要がある、また学生主体のボランティアグループであることから、学生たちとどのように G B Aを発展させていくかしっかりと話し合う必要があると思われる。

2) 学生間の報告・連絡・相談体制の充実

やんちゃキッズの活動は、学生たちが主体的に行っており、学生のリーダーが中心となって毎回、準備・運用にあたっている。しかしながら、特定の学生グループに役割が集中してしまいリーダーの役割が過剰になる傾向や、全体での連絡・調整が不十分で参加できるメンバーが不明確なまま当日を迎え混乱するといった問題が散見した。また、スマートフォンの普及によりグループチャットなどによる一方向的なコミュニケーションで連絡事項が簡便に流されることが多くなり、連絡が本当に伝わっているのかどうか確認がなされないまま学生間の連携がうまくいかない場面が多くみられた。この問題点については、本年度のミーティングで話し合い、学生の連絡グループを構成し、連絡係を決め、連絡網を作成することによって改善を試みているが十分であるとは言い難い。今後より報告・連絡・相談体制の充実を図っていきたい。

3) 全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくり

全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくりについては、次年度も継続して課題として取り上げる。子育て支援ボランティアという原点に立ち返り、来場者が安全に気持ちよく利用できるように創意工夫を積み重ねていくことは、やんちゃキッズの活動の改善のみならず、学生にとっても、子どもや保護者に対する思いやり、よりよい環境構成、危険箇所の察知に関する敏感さ、子どもの育ちに関する専門的理解の涵養に資すると思われる。これらの能力は、学生たちが将来専門職に就いたときに必ず求められる資質である。

謝辞

2015年度の子育て支援ボランティアグループG B A及び「就実やんちゃキッズ」の活動は、平成27年度就実大学・就実短期大学学術・文化・スポーツ奨励金を受け実施した。記して深謝致す次第である。

引用文献

- 1) 村田恵子、澤津まり子、立石あつ子 (2006). 保育学生による地域子育て支援の取り組み－備前地域子育てキャラバン事業報告－、就実論叢、36 (社会篇)、pp.135-152.
- 2) 澤津まり子、永田彰子、田中誠、立石あつ子 (2007). 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2007年度活動報告－、就実論叢、37 (社会篇)、pp.81-98.
- 3) 澤津まり子、堤幸一、立石あつ子、伊藤真、笹倉千佳弘、田中誠、永田彰子、山根薫子、Z. 山田章子 (2008). 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2008年度活動報告－、就実論叢、38 (社会篇)、pp.285-298.
- 4) 澤津まり子、伊藤真、堤幸一、立石あつ子、笹倉千佳弘、Z. 山田章子、田中誠、山根薫子 (2009). 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2009年度活動報告－、就実論叢、39、pp.233-247.

- 5) 澤津まり子、立石あつ子、柴川敏之、秋山真理子、堤幸一、笹倉千佳弘、田中誠、山根薫子 (2011). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2010年度活動報告—、就実論叢、40、pp.163-172.
- 6) 澤津まり子、柴川敏之、松本希、鎌田雅史、Z. 山田章子、秋山真理子、笹倉千佳弘、田中誠、山根薫子 (2012). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2011年度活動報告—、就実論叢、41、pp.175-186.
- 7) 松本希、柴川敏之、澤津まり子、鎌田雅史、田中誠、秋山真理子、Z. 山田章子、笹倉千佳弘、山根薫子 (2013). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2012年度活動報告—、就実論叢、42、pp.161-174.
- 8) 松本希、田中誠、澤津まり子、鎌田雅史、秋山真理子、笹倉千佳弘、柴川敏之、Z. 山田章子、山根薫子 (2014). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2013年度活動報告—、就実論叢、43、pp.325-336.
- 9) 田中 誠、秋山真理子、鎌田雅史、蔵永 瞳、澤津まり子、笹倉千佳弘、柴川敏之、Z. 山田章子、松本 希、山根薫子 (2015). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2014年度活動報告—、就実論叢、44、pp.291-301.